

『子どもとたのしむ絵本の時間 小学1・2年生と一緒に読みたい本』
 県下読書ボランティアをされている方々からの推薦図書

読む時期	おすすめの一冊の書名	作者名または画家名	おすすめの理由
春	そらいろのたね	中川 李枝子／さく 大村 百合子／え	絵がかわいらしくて、入学したての子どもにぴったり。よくばったきつねが、最後に倒れた場面で、あーやっぱりねと思わされるお話です。
春	四国にきつねがおらんわけ	大野 美保／画 盛重 ふみこ／文	「みんな山できつねをみたことある?」「どうしていないのかな。」で読み始めると、興味を持って聞いてくれます。お話の展開のおもしろさ、臨場感のある絵に子どもたちが引き込まれるのを感じます。紙芝居もありますが、絵本は違った魅力があります。1年生にぴったりです。自費出版の絵本です。
真冬以外	ちゅーちゅー	宮西 達也／作絵	ネズミの子供とネズミを見たことのない猫の話です。読み終わった後。心がほっこりして優しい気持ちになります。
6月 歯の健康	えんまのはいしゃ	くすのきしげのり／作 二見 正直／絵	地獄のえんま様と鬼たち、そしていい加減な治療をしてきた歯医者とのコミカルなやり取りが笑いを誘う楽しいおはなしです。そして楽しいだけではなく、キチンと歯を磨こう!という気持ちにもさせてくれます。絵もユニークで創造力の膨らむとても素敵な絵本です。
雨のとき	山びこくん(県立図書館所蔵無)	たかはし ゆうじ／作	絵も文もあたたかく、やさしく、きっと子どもたちの心に残ると思います。
夏	ありとすいか	たむら しげる／さく・え	大きなすいかの絵に圧倒されます。大型絵本だと更に惹きつけられます。低学年にも分かりやすいお話です。
秋	まめうしのびっくりなあき	あきやま ただし／作・絵	小さい人はまめうしくんと一緒になってびっくりしたり笑ったりの大冒険をするでしょう! 普段見過ごしている身近な自然が愛おしくなる一冊です。
秋	どんぐり	エドワード・ギブス／作 谷川 俊太郎／訳	どんぐりを通して幻想的な世界に入れる絵本です。最後の方のページにしかけがあり より実ったどんぐりの木を感じられます。
秋	花さき山(大型絵本)	斎藤 隆介／作 滝平 二郎／絵	・ 独特の挿絵と読み手の「ばば」の声にひきこまれて、真剣に聞いてくれているから。 ・ いつの時代も心に響く名作であるので。
秋 冬	ええところ	くすのきしげのり／作 ふるしょう ようこ／絵	・ 人権週間の頃に読み聞かせをしたり、おすすめ図書に置いています。お友達のいいところを見つけて伝えあう、心が温かくなるお話です。 ・ 道徳の教科書にも載っているお話、自分のいいところってどこだろう。と考えさせられます。やさしいお話です。シリーズになっています。
秋 冬	こんもりくん	山西 ゲンイチ／作	子どもたちが楽しんで聞いてくれたお話です。
冬	おおさむ こさむ	こいで やすこ／さく	大自然の中で、冬の寒さや雪を楽しみながら、その厳しさに負けないようゆきぼうずが登場させスリルを味わわせます。初めと終わりに登場するおばあちゃんの子どもたちを見守る温かさがほのぼのとしたぬくもりを感じさせます。
冬	おくりもの	豊福 まきこ／作	心の通い合いを感じられる素敵な1冊です。
冬	おふくさん	服部 美法／ぶん・え	おふくさんの出てくる、お正月にぴったりの本でした。「笑う門には福来たる」のことわざで終わるので、言葉を知るきっかけにもなります。学童保育で読みました。
冬	おふろだいすき	松岡 享子／作 林 明子／絵	お風呂という身近な場所でこんなことがあったらと想像力をかきたてられる内容がとても楽しいようで、途中でよく笑ったり声が上がったりします。絵も大好きなので、一人息子(小6)と一緒に読んだことを思いながら、時々自分の楽しみのために一人でも読みます。

読む時期	おすすめの一冊の書名	作者名または画家名	おすすめの理由
冬	きょうはなんのひ	瀬田 貞二／作 林 明子／絵	ほほえましい意外性とまねしたくなる優しさがある。
冬 (3学期)	ふたりはともだち	アーノルド・ローベル／作 三木 卓／訳	1年生の国語科の学習で「ふたりはともだち」の中に載っている『お手がみ』というお話を学習します。がまくんとかえるくんのことが好きになる児童が多いので、『お手がみ』の学習の前後にこの絵本を読むと、子どもたちも嬉しそうに聞いています。
冬	まどから★おくりもの	五味 太郎／作・絵	子供が喜んで、驚きをもって聞いてくれました。

いつでも	3びきのかわいいオオカミ	ユージーン・トリビザス／文 ヘレン・オクセンバリー／絵	だれもがみんな、仲良く生活できることを教えてください。身の周りのちょっとしたHAPPYを大事にしようと気付かされます。
いつでも	あっ、ひっかかった	オリヴァー・ジェファーズ／作・絵 青山 南／訳	ページをめくる度に、とても子ども達の反応があり、話に引き込まれていると感じられ、読んでるこちらもワクワクしながら読み進めることができました
いつでも	あめだま	ペク・ヒナ／作 長谷川 義史／訳	1年生の児童に読み聞かせをしたら、家でも子どもからその話が出たそうです。人やペットや物、いろいろなものの声に耳を傾けたいくなる、そして、声を掛けたいくなる、温かい作品です。
いつでも	いやいやえん	中川 李枝子／さく 大村 百合子／え	登場する子どもの様子がかわいらしく、読み聞かせを聞く子ども達の発達段階にあっているから。
いつでも	うえきばちです	川端 誠／作	表紙のかわいい絵からは想像できない内容です。子どもたちに声かけしながら読みます。最後はみんな「えー!」で終わります。子どもたちの声が聞ける楽しい絵本です。
いつでも	おまえ うまそうだな	宮西 達也／作絵	この本は、何よりも、読んでいる大人の方が、泣きそうになります。その読み手の気持ちがつたわってか、子どもたちも、泣きそうになっていました。なぜ、心がじわんとするのか、考えを伝え合う、とてもいい時間になると思います。
いつでも	オレ、なんにもしたくない	デヴ・ペティ／ぶん マイク・ポルト／え こばやし けんたろう／やく	いつもはちゃんとしてるのに、宿題も遊びもなかなかエンジンがかからないで、いつまでも時間だけつぶしているお子さん。そうだね。今日は、『「なんにもしない!」っていう予定』が入ったのかな?みんな、そんな時もあるよ。という気持ちで読んでいます。
いつでも	このほんよんでくれ!	ベネディクト・カルボネリ／文 ミカエル・ドゥリュリュウ／絵 ほむら ひろし／訳	えほんに興味があいたオオカミだけど、字が読めないで森の動物達に読んでくれるよう頼みますが、オオカミが怖くて読んでくれません。そんな中ウサギが読んでくれて、そのうちオオカミは、森のみんなにえほんを読んであげられるようになります。それまでのオオカミと森の動物達やウサギとのやり取りや気持ちの変化、最後のどんでん返し子どもたちは、ハラハラドキドキしながら聞いていました。読み終えた時に自然と拍手が沸き起こりました。
いつでも	ころべばいいのに	ヨシタケ シンスケ／作	今は、コロナ禍でしたいことがなかなかできないことが多いです。時々、イライラするけれど、他人にあらず、相手のことを少しでも理解しようとする絵本です。一人一人が、相手の立場に立つことの大切さを、楽しく教えてください。
いつでも	じゃない!	チョー ヒカル／作	読み聞かせしながら、子どもたちとやりとりが楽しめる作品だと思います。今はコロナ禍でなかなかやり取りをするのはむづかしいところがありますが、ページをめくるごとに、次は次?と楽しみがわいて引き込まれていきます。文字が少ないので、絵を楽しみつつ子どもたちの想像が広がります。また、読み聞かせのあと、改めてじっくりと読んで確かめたい本だと思います。
いつでも	やっぱりじゃない! Look again!	チョー ヒカル／作	「なにこれー! ○○? いや、△△?」みたいにみんなが答えてきやーきやー楽しんでくれる絵本です。こんなアートがあるんだ! って発見にもつながると思います。

読む時期	おすすめの一冊の書名	作者名または画家名	おすすめの理由
いつでも	しゅくだい	宗正 美子／原案 いもと ようこ／文・絵	<ul style="list-style-type: none"> 学校で出された宿題は、なんと「だっこ」。みんな「えー」という反応をしますが、低学年だと家族に抱きしめられて嫌な気持ちはしないはずです。小学生になり、弟や妹がいるとなかなか家族に甘えられることがなくなることもあります。だから、この本を読み聞かせた後には、同じ宿題を出します。抱きしめられ、家族の愛情を感じ、あたたかい気持ちになってほしいです。 読み聞かせの後、抱っこの宿題を出すことができるから。
いつでも	そのときがくるくる	すず きみえ／作 くすはら 順子／絵	主人公が苦手だったナスを巡ってのストーリー。苦手なものもいつか食べられるようになる、苦手なこともいつかできるようになる、そのときが必ず来るというメッセージが込められていて、明るい希望がもてる本です。
いつでも	たいせつなこと	マーガレット・ワイズ・ブラウン／さく レナード・ワイズガード／え	いつか悩んだ時、困った時、迷ったときに読んでほしい本です。小さいときに読んでおいて、思い出して手に取ってほしい本です。
いつでも	たべものやさん しりとりたいかいかいさいします	シゲタ サヤカ／著	子どもたちが大好きなしりとりを使っているの、一緒にノリノリでしりとりの文を読みながら盛り上がれるから。
いつでも	たまごにいちゃん	あきやま ただし／作・絵	本が大きく、読み聞かせを耳だけでなく目でも楽しめるから。
いつでも	たまごにいちゃんシリーズ	あきやま ただし／作・絵	たまごにいちゃんが少しずつ頑張っている姿が大好きです。
いつでも	はらぺこあおむし	エリック=カール／さく もり ひさし／やく	ページをめくるたびに、「うわあ」という歓声が上がりました。
いつでも	パンダ銭湯	tupera tupera／さく	銭湯は「パンダ以外の入店は、固くお断りしています」と言う面白い設定で、子どもたちものめり込みます。予想していたこととちょっと違う展開に「えーそっかか〜」と思わず言ってしまうようなお話です。
いつでも	パンどろぼう	柴田 ケイコ／作	絵がとても印象的で子どもうけがよい。
いつでも	パンやのろくちゃん	長谷川 義史／作	言葉にリズムがあり、とても読みやすいです。4つの小編から成っていて、時間が来たら一つのお話で中断することも可能です。絵に勢いがあるので、子どもたちも様子を楽しみながら聞いてくれます。
いつでも	ふしぎなナイフ	中村 牧江、林 健造／さく 福田 隆義／え	「つかみ」的、または「息抜き」的に読みます。自由に声を出してもらって、たのしい雰囲気を作れます。
いつでも	ほげちゃん	やぎ たみこ／作	ほげちゃんは、シリーズ化されていますが、一冊目のほげちゃんの最後(裏表紙の見返し)にぬいぐるみの型紙があります。それで作ったほげちゃんを持参して、読み聞かせをすると、子どもたちは楽しそうに読み聞かせを聞いてくれるので、オススメです！
いつでも	まほうのコップ	藤田 千枝／原案 川島 敏生／写真 長谷川 摂子／文	ページをめくるたびに、水の入ったコップによって姿を変身させたものが次々と出てきて、とても楽しい本です。3年生が1年生に読み聞かせしたところ、とても喜んでくれました。読み聞かせの後、実際に、コップに水を入れて、いろいろな物がどんな風に変身するか試して遊ぶこともでき、1冊で2度楽しめる本です。
いつでも	やさいさん	tupera tupera／さく	子供達がやさいに興味を持ってくれる。スーパーに並んでいるやさいでなく、本当の姿を見てみられる。
いつでも	りんごかもしれない	ヨシタケ シンスケ／作	子どもの想像力を豊かにするため。
いつでも	ろくべえまってるよ	灰谷 健次郎／作 長 新太／絵	大三島図書館の方が紹介して下さいました。1年生にもわかりやすかったです。
いつでも その他	パパ、お月さまとって！	エリック=カール／さく もり ひさし／やく	絵もきれいで、見ているだけでも引き込まれる絵本です。
友だちについて	やもじろうとはりきち	降矢 なな／作・絵	友だちってなんだろう？自分とは？ということを考えさせるきっかけになる本です。絵も見やすく、文章もわかりやすいです。